

『心理学ワールド』の 楽しみ方

特別企画



51～100号表紙デザイン
虎尾 隆氏

「集められ、カットされ、バラバラに散乱したコラージュの材料には、それぞれリアルティがあり、単にどこかからの日常世界から切りとられた1個の断片にすぎない。しかし、組み立てられた全体は、どこかにあるようでどこにもない世界となる。まるで夢の世界のように。」(虎尾隆作品集『Interior』2001年)。
これは作品制作のはなし。
一方、書籍など出版物の表紙装画などの場合、当然のことだけれども説明的であるよう求められる。(そうでない時もあるけど) だから難しい。自分の内なるイメージやインスピレーションを表現するだけでは成り立たない。「具象」と「抽象」の間を行ったり来たり、ああでもないこうでもない……さて落ち着く先はどこに。



1998年の創刊準備号から始まった『心理学ワールド』はこのたび101号を迎えました。ここに特別企画をお届けします。本誌『心理学ワールド』を通して心理学の世界(心理学ワールド)を楽しんでいただきたいという趣旨です。今回は51号から100号までの約12年間を振り返り、テキストマイニングによる分析に加え、読み手の立場と創り手の立場からご寄稿いただきました。心理学以外のご専門とする多くの方々からも原稿を頂戴することができました。特別企画をお読みいただくと、過去の記事が気になります(そういう仕掛けになっています)。51号以降は全ての記事が本学会のウェブサイトで公開されています。それらも併せてご堪能ください。

本誌編集委員長 片山順一